

# ゆとりある団地生活

—暮らしに合わせた土間の使い方—



## 01 団地の分析と考察

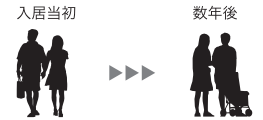
団地室内は老朽化しており、4.5畳の3部屋が設置されていて各部屋が狭く感じる。玄関や廊下が暗く光が届きづらいのが現状である。

また、現在のライフスタイルにはLDKとワーキングスペースは欠かせないものになっていると感じる。



## 02 家族構成

夫婦2人暮らし



- ・結婚を機に新生活をスタートする
- ・当分の間、2人の生活を楽しもうと考えている
- ・在宅ワークを行うこともある
- ・後々、子どもを考えている

## 03 コンセプト・ゾーニング

「日常の中にもゆとりある暮らし」

コロナ禍を境に自宅にいる時間が増え、住環境が整っていることがより重視されている。

そこから、日常生活の中にも非日常を感じる空間や場所があることで住み続けることができるのではないだろうか。



## 04 主な提案

- ・非日常空間な「土間」
- ・水回りを一つにすることで既存動線の短縮化
- ・室内とひと繋がりにする「バルコニーテラス」
- ・空間を軽やかに区切る「カーテン」「可動式本棚」
- ・椅子にもなる収納

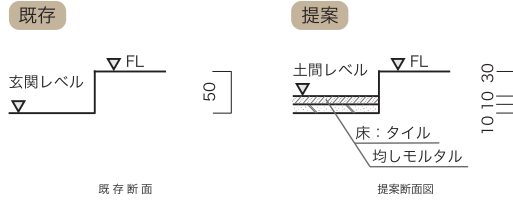


## 廊下



閉鎖感を解消すべく、新設の壁に開口部を設け自然光を入れる。簡易棚を設け季節を感じる展示をする。

## 土間 - レベル差 -



既存の玄関をフロアレベルが 50mm である。そのレベル差を生かして、今回の提案する土間は、既存の玄関に土間コンクリートをその上にタイルを貼り付け現代ぼくする。

## 土間 - ワークルーム・応接室 -



土間の日常・非日常の使い分け。日常では、ワークルームとして、非日常では友人を招いた応接室としてスタイルに合わせて空間を変える。

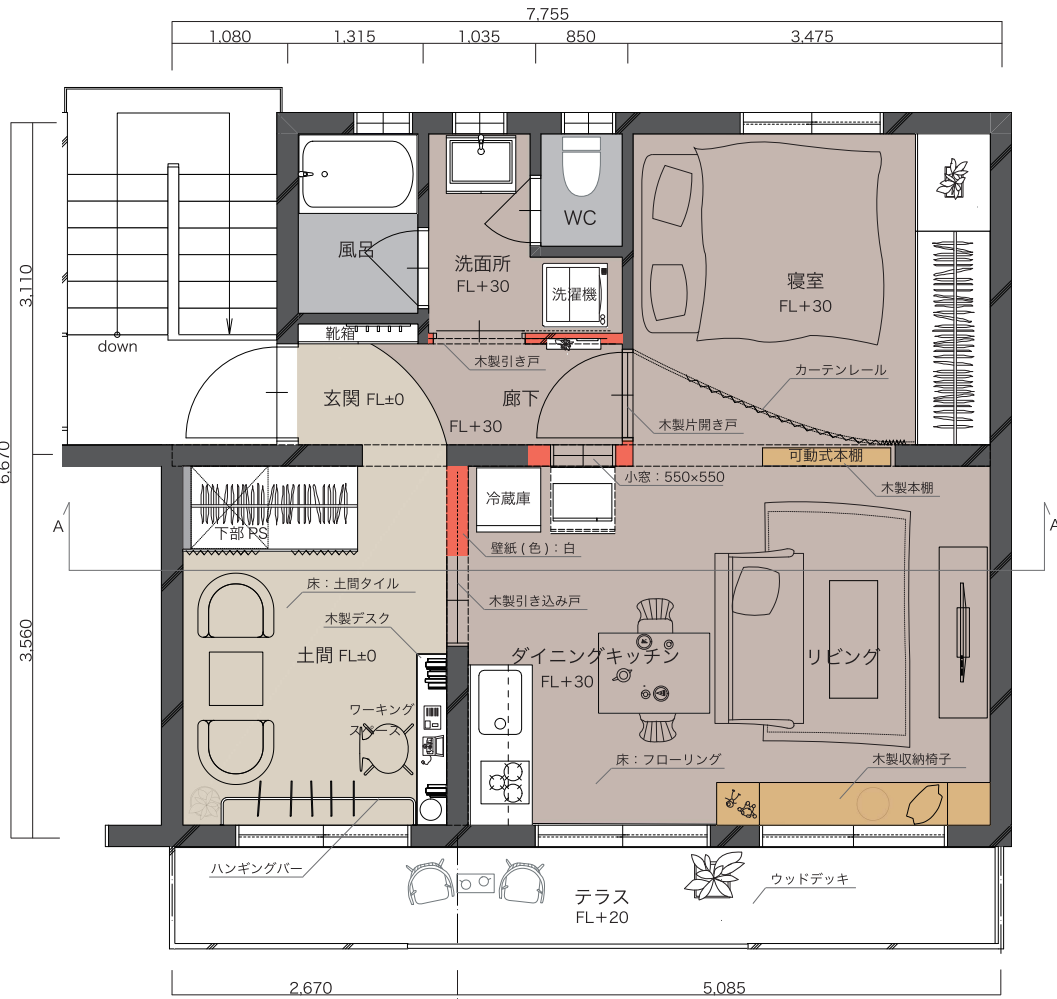
## 土間 - サンルーム -



「サンルーム」としての利用。雨天の際に、天井に設置したハンギングバーに洗濯物を干すことができる。洗濯動線を土間経由で利用することで、室内から土足で移動でき家事を行いやすくなる。

## 水回り

新設の壁を設け、洗濯機を脱衣所内に配置。

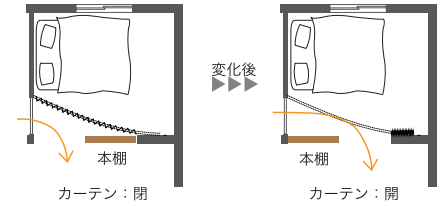


## 可動式本棚



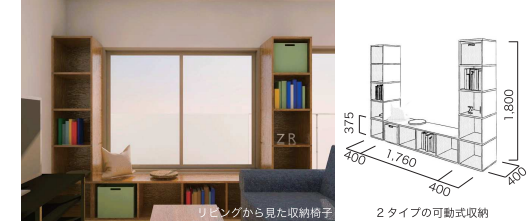
既存の鴨居と敷居を生かして、それぞれの溝をスライドさせることで本棚をスライドさせて可動させることができる。

## カーテンレール



カーテンレールと可動式本棚を可動するにより、動線が多様化させることができる。その時の気分や部屋のレイアウトによって柔軟に対応することができる。

## 椅子 × 収納



リビングの窓際に、可動式収納の椅子を設ける。テラスとの交流を図ることができる。また、お客様を迎えた際にテーブルを移動させて対応できる。2タイプを組み合わせる。

## テラス



バルコニーに取り付け「テラス」を設ける。バルコニーとのレベル差を緩和し、室内とのレベルを合わせることで、ひと繋がり空間をつくる。